様式第３号

平成 30 年度　学校経営報告書（自己評価）

学校番号	15	学 校 名	静岡県立御殿場南高等学校	校 長 名	有馬　祥哲

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）
【達成状況は成長感アンケートの集計結果　上段は生徒、下段は保護者　（　）は昨年度の割合】

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	生徒が、御殿場南高校での生活に、達成感と自己肯定感を持つ。	南高校に入学して充実した高校生活を送っている。90% 様々な状況において自分の立場を切り替え、集中力を持って、行事・活動に取り組む。80%	80%(84%) 91%(87%) 92%(90%) 75%(75%)	B	・昨年度からデジタルサービス「Classi」を導入し、毎日生徒が入力する形で家庭学習時間調査を実施し（結果は月ごとに集約）、勉強と部活動を両立できるよう指導を行っている。 ・生活アンケート等により生徒の悩みなどを把握し指導を行った。
イ	**キャリア教育の実践を通じ、学ぶことへの内発的な意欲を高め、自己決断力を育成する。**	知識が豊かになり将来の進路希望に意欲が湧き、大学入試などに向かう。80% 課題解決のために情報を収集し、分析し、問題点を焦点化する。75%	85%(86%) 80%(73%) 82%(81%) 74%(69%)	B	・Ｃプロジェクト(キャリア教育)が６年目を迎えた。 ・１年生は企業研究(インターンシップ)に、２年生は大学のオープンキャンパスに全員が参加し報告書の作成及び報告会を行った。 ・１年生の企業研究では、職業人の講話を聞いたり、仕事を体験したりすることで、自分の将来に向けて今やるべきことを見つめた。 ・２年生はキャリア教育のまとめとして「キャリアプラン表明書」を作成し、自らの進路・人生について仲間及び教員に表明し、共に考える機会を持った。 ・３年生の進路研究では、自己を深めながら、自分の強みを生かせるような進路について考え決断し、進路実現に向け取り組んだ。 ･論文研究では、１・２年生は新書を読むことで希望する進路について知識を増やし、３年生ではそれらを踏まえて自分なりの論述ができるよう指導した。 ・３年生は進路決定者も含め、自己の学力を把握するために、99%の生徒がセンター試験を受験した。

様式第３号

					・社会に出てからの必要な学力を更に意識させる必要がある。 ・人々にどのように尽くして、社会にどのように貢献していくかを考えさせるためにも、今後も様々な大人と出会う機会を設けていきたい。
ウ	**教科指導において、疑問と納得を重視した指導を心掛ける。また、自らが課題を見出し、解決方法を考える学習活動を推進すると共に、全国水準を上回る学力を養成する。**	自らの意見を述べ、他人の意見と調整し、知識を発展的に捉えていく。75% 論理的思考力を高め、知識を活用し、課題解決案を作成する。75% 様々な現象に対する興味関心がわき、原理・原則や考え方を理解する。75%	79%(76%) 75%(70%) 80%(77%) 73%(68%) 79%(77%) 80%(76%)	B	・アクティブ・ラーニングを積極的に行い、自分の考えをまとめ、他者に伝えたり他者の発表を聞いたりすることで自分の考えや思いを確固たるものにしていけるよう、学習過程を質的に改善することを目指した授業を行っている。 ・昨年度から、カリキュラム・マネジメントの視点から教育課程を見直すことを目標に研修を進めている。 ・高大接続の新テストや新教育課程に対応するため教員を研修会に派遣し、研修を深めている。 ・３年次では教科によっては小集団の授業や補習を行い個々の疑問に対して応えられる体制を整えている。 ・授業の振り返り、模試データ分析などから学習法確立と要点把握に努めさせた。
エ	品格ある自律した生活態度を育成し、社会のモラルとマナーを意識させる。	健康、身だしなみ、環境整備に気を配り、清掃など推進活動を積極的に行う。95% 時間的自己管理ができ、けじめある生活が送れ、生活リズムができている。90% 法律や規則の意味を理解し、自分で遵守するだけでなく、啓発に努める。80%	91%(91%) 84%(79%) 76%(86%) 82%(76%) 87%(86%) 86%(84%)	B	・日常的に職員が昇降口において挨拶指導を行っている。 ・毎月の集会等において、生徒課等から学校生活、校外のマナーなどについて指導をしている。 ・全体的に服装及び校内の生活は落ち着いていると思われる。 ・通学路でのマナーについても大きな苦情等はなく比較的落ち着いており、マナーの維持・更なる向上が期待される。

様式第３号

	健康教育、交通安全教育を推進する。 防災教育を実施する。	自分や周囲の心身の安全を意識し活動を実践する。 90% 困難に直面しても、自分のやれることを試行錯誤し解決へ努力する。 75%	95%(95%) 96%(91%) 90%(87%) 73%(69%)	B	・通学路交通安全指導を生徒、職員、ＰＴＡ、警察等と連携し実施した。 ・災害時に備え、防災訓練を２回実施した（うち１回は抜き打ち訓練）ほか、防災講座を開催し、救急処置法、避難方法の学習等を行った。 ・地域と連携し防災連絡会議を実施した。 ・生徒の欠席を減少するためには、感染症対策、生活のリズムを含めた精神衛生等の指導を充実する必要がある。
オ	**キャリア教育と連動し、地域と連携した交流活動を推進し、多様な考え方を学ばせ、整理させると共に、コミュニケーション力・リーダーシップを向上させる。また、働くことの意義を自覚させる。**	多様な人と関わり、交流の機会を積極的に持つ。80% 仕事、家庭、社会との繋がりを考え、連携して社会に尽くす意思を持つ。 80% 行事・活動を、多様な視点でとらえ、自己・他者の事情に配慮し、実践する。80%	79%(74%) 67%(64%) 88%(86%) 79%(76%) 92%(91%) 90%(89%)	B	・１年生の介護体験実習、生徒会、各部活動（１部活動１ボランティア）で地域の祭典イベント等に積極的にボランティアとして活動した。 ・昨年度から早稲田大学や関係機関と連携し、リーダーシップ教育を実施している。１年生を中心に、質問力・論理思考向上をねらいとした研修を７月・10月に１年生全員が、12 月（大学訪問時）には１年生の希望者が受講し、生徒には大変刺激になったようであった。 ・ハワイ修学旅行では、外部講師も招いて異文化理解や歴史教育等を事前学習として行い、また旅行期間中は 1 年次からのリーダーシップ研修の集大成として現地の人にインタビューを行う研修等を実施した。 ・社会人講話、１年生の職業研究等では、企業人との関わりにより、働く意義及び社会人としての必要な力について考える機会を得た。
	芸術性、独創性を育む活動を積極的に取り入れる。	体力、競技力、想像力、表現力などが向上し意欲的に継続できるものがある。 80%	88%(84%) 83%(80%)	A	・文化祭では書道・美術授業の展示発表及び合唱コンクールが実施された。 ・運動部では多くの部活動が県大会に出場した。 ・陸上競技部の生徒（競歩）が、全国高校総体、新人戦東海大会に出場した。 ・男子バレー部が東部地区で常に上位の成績を収めた。 ・芸術鑑賞会ではジャズバンド演奏を鑑賞し、生徒も大いに楽しめたようであった。

様式第３号

	読書活動・NIE の推進と社会からの情報を活用し、現実社会における精神的バランスを保つ。	経済的な豊かさと効率だけでなく、精神的な充実感とのバランスを求める。 80％	87%(89%) 91%(88%)	A	・朝読書を、担任・副担任の指導のもと毎日実施している。 ・朝読書等で新書等を読む機会を設け、論文等の指導に役立てている。 ・図書便りを毎月発行し、読書活動の推進を図っている。
カ	保護者、地域外郭団体、小学校、中学校などに、本校の活動を発信し、理解を深める。	家族や友人に配慮し、活動の影響や効果を整理し、改善につなげて行く。 75％ 保護者や地域の人々から信頼される人に近づけた。 80％	93%(93%) 89%(83%) 84%(81%) 89%(85%)	B	・１日体験入学（１回）、オープンスクール（１回）、個別相談会（１回）、北駿地区合同説明会（３回）を実施した。 ・生徒会が主体となり、FM 御殿場の本校紹介番組に積極的に参加した。 ・定期の中学校訪問の実施と各中学校での説明会に積極的に参加した。 ・ホームページで行事の紹介等 50 回以上更新したが、情報発信の更なる充実が課題である。
キ	組織化を推進し、教育環境を整備する。	公共物や施設を大切に使用し、維持管理に貢献する。 80％ 定期点検月 1 回 随時点検	97%(97%) 98%(95%)	A	・施設の老朽化が進んでいることから、危険個所の把握に努めた。予算規模の小さな案件は修繕対応をした。大きな案件は県へ工事予算の要求をしているが、要求に対する予算措置件数は年々減少しており、今後も継続して要求していく。 ・学年による校内及び周辺の清掃活動を実施した。
	業務改善を図りながら教職員の意欲と組織的指導力を向上させ、明るく活力ある学校づくりを推進する。	補習、部活動における外部人材の活用を推進する。 分掌・学年部の業務ファイル、ワークシートの作成を進め、業務の引継ぎを円滑にする。		B	・部活動・進路指導等に外部指導者を活用し、生徒の個々に応じた対応を行った。 ・分掌・学年部の業務ファイル、ワークシートの作成を進めているが、分掌・学年部により対応がまちまちであり、業務の一層の効率化が課題である。 ・次年度の行事予定を作成する際、廃止又は縮小できる行事について検討を行っている。